

(別紙 13)

新潟県におけるクマ類の調査の実施に係る評価報告
(調査・計画策定事業)

1 現状のクマ類の調査の状況及び課題等

県内のツキノワグマの生息密度を把握する目的で、県全域（約 120 地点）に自動撮影カメラを設置。ベイズ推定計により個体数を推定し、次年度の捕獲計画に反映。

にいがたクマ出没マップの運用・保守管理を行い、クマ出没情報を県民等に分かりやすく提供するとともに、出没が多い場所での防除対策・捕獲場所の選定等に活用している。

2 実施する調査の具体的な内容等

実施時期	令和 7 年 6 月～令和 9 年 3 月
場所	県全域（120 地点）
目的・必要性	ツキノワグマの個体数管理にあたり、環境省ガイドラインに基づき推定個体数から捕獲上限数を算出して捕獲計画を策定しているため、個体数を推定する必要がある。 また、人身被害の防止・注意喚起をするために、にいがたクマ出没マップの運用が必要。
調査主体	新潟県
内容・得られる情報	ツキノワグマの推定個体数、リアルタイムのクマ出没情報
方法	【生息状況調査】 コンサルタント業者にカメラ設置～撮影頻度の算出及び個体数推定を委託。 【クマ出没マップ】 当課職員が運用。マップへの入力由市町村が実施。
活用方法	・推定個体数は個体数管理施策等に活用。 ・にいがたクマ出没マップは常に公開し、県民が常時リアルタイム

	のクマ出没情報を確認できるよう運用。
事業費	9,855,161 円
備考	

注：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。実施する調査が複数ある場合は、調査の種類毎に各項目を記入すること。

3 調査結果及び考察（事業終了後の評価報告時のみ）

令和7年度は大量出没年の影響で出没件数や捕獲数等が大きく増加し推定にも影響した。今後はさらにデータを蓄積していき精度を高めていく必要がある。

また、クマ出没マップは引き続き県民等に分かりやすく情報発信をしていく。

注：調査によって得られた情報と分析結果、調査結果の活用方法等を記載するとともに、今後の改善点や必要な調査等についても記載すること。

4 その他

注1：モニタリング・調査の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。